

## 2022年度浩志会本会員活動方針

～変わらないために変わり続けている浩志会を明日に繋いでゆこう～

本会員代表幹事 野崎 彰（金融庁）

6年前、自らの所属組織からは一人目ということもあり、少しばかりの不安を胸に浩志会員となって以降、濃密な2年間の研究会員活動、その後の奥の深い本会員活動を通じて、多くの方々から様々なヒントや刺激を頂いてきました。幸い事務局が職場から近いこともあり、巻き寿司ランチも兼ねて月例会などに足繁く通っているうちに、気がついたら浩志会をととても身近な存在に感じるようになっていました。そうした中で今回、代表幹事にお声掛け頂き、身の引き締まる思いでいます。

様々な分野で活躍されている会員どうしが、組織や世代を超えて「さん」付けで呼び合い、納得いくまで本音で徹底的に語り合うことのできる場がいつも傍にある。浩志会員にとっては当たり前でほとんど意識することもないかもしれませんが、浩志会の財産とも言える相互の安心感や信頼感は、長年に亘り、地道に人と人との繋がりを積み上げながら活動されてきた全ての方々のご努力の賜物だと折に触れて感じます。特に直近の2年半は、リアル活動が大幅に制限され、先の見通せない不安な状況の中、さまざまな工夫を凝らしながら、会員活動の維持・継続に注力されて来られた事務局、本会員幹事団メンバーには心より感謝申し上げます。

オンライン会議の普及、バーチャルオフィスなどメタバースの利活用が進む中、コミュニケーションのスタイルも大きく変わり、信頼（トラスト）の構築のあり方も多様化してきています。これまで我々は、リアル酒場でお酒を酌み交わしながら信頼を築いてきましたが、オンラインでも、目を合わせたり頷いたりすることで双方の脳波がシンクロして信頼感が生まれ、プログラミングやゲームなど同じ目的意識を持つ人たちが瞬時に意気投合するというSwift trustなどが注目されたりしています。特に研究会員活動の多くの時間をオンラインで過ごし、これから本会員となられるの方々にとっては、浩志会活動のベースとなる会員相互の信頼感の捉え方も、リアルとオンラインが融合したハイブリッドな形になるのかもしれませんが。

そもそも、デジタルの世界でトラストは「事実の確認をしない状態で、相手が期待通りに振る舞うと信じる度合い」と定義されていますが、浩志会の「kから始まる基本理念」の下では、有難いことにフルトラストが組織にビルトインされています。さまざまな世代、バックグラウンドを持つ会員の皆様が「kから始まる基本理念」を共有しながら、浩志会の財産である相互の安心感や信頼感を次の世代に引き継いでいけるよう、皆で知恵を出し合いながら活動を進めていきたいと思えます。

これから1年間、本会員活動を進めるに当たっての私なりの方針を以下に記したいと思えます。会員の皆様も、これから1年間、浩志会とどう向き合っていくのかの

か、様々なお考えがあると思いますので、これを機に是非ご自身の活動方針を思い描いて頂ければと思います。

その1：あらゆる活動とにかく参加する。

浩志会活動は、定例の本会員活動だけでなく、夏季全体研修会、創立記念パーティ、月例会、談論会、サロン、トップ懇談会をはじめとする様々な会合、ミニコミ誌や会報の編纂など多岐に渡ります。また、ミニコミ誌に掲載されない、浩志会員つながりの勉強会や各種アクティビティも数多く存在します。これらの活動とにかく参加してみることで、浩志会のダイナミズムをより身近に感じ取りたいと思います。

浩志会の活動は、事務局をはじめ多くの方々の多大なる貢献により維持されています。その思いに応えるためには、1人でも多くの方々に顔を出して頂くことが何よりも大事だと思います。参加するのに目的や理由は要りません。全ての活動は一度きりです。諸々考えず、とにかく予定をブロックし「出席」の欄にチェックをして参加しましょう。

その2：懐かしのメンバーと再びつながってみる。

これまで研究会員、本会員の様々な活動を通じて多くの出会いがありましたが、直近2年半はリアルで再会する機会もめっきり減ってしまいました。まずは身近にいる浩志会員を探し出すとともに、今後、自然発生的に企画されると見込まれる各種の同窓会に積極的に参加していきたいと思います。各方面で様々な活動をされている懐かしのメンバーに久しぶりに会って、この期間にお互いが感じていたことを共有するだけでも、意外な発見や気づきが得られると思います。

我々の体は、絶え間のない流れの中で合成と分解を繰り返し、消化管の表面の細胞は2～3日、筋肉だと2週間、血液の細胞だと数ヶ月で入れ替わっていると言われ、分子レベルでは1年前の自分と今日の自分はほぼ別人だという、福岡伸一先生の動的平衡論の著書にたびたび登場する小話に思いを馳せると、再会の感慨はひとしおかもしれません。

その3：オンラインならではのプロトコルを意識してみる。

本会員活動でもリアルとオンラインのハイブリッド開催がすっかり定着してきました。オンラインだといまいち参加している実感が持てず、疎外感を感じたりする場面があるかもしれません。

最近、エンジニア系の方々とオンライン会議をする機会が多いのですが、複数のチャットツールを活用してリアルよりも活発なコミュニケーションが実現できたりしています。オンライン参加でも、チャット機能を活用してつぶやき続けること

で、リアル参加よりも濃密なやり取りができるかもしれません。また、表情やジェスチャーを少しオーバーにするなどの工夫により、より相手に気持ちが伝わりやすくなるかもしれません。先日も20代のベンチャー企業の方々とオンライン会議の折、最後にこちらは深々と頭を下げてお別れをしようとしたところ、先方がみんな両手を振ってくれたので、こちらもみんな両手を振ってお別れしました。みんなと同じジェスチャーをすると、一体感が生まれる不思議な体験をしました。

こうしたデジタルネイティブ世代のプロトコルも徐々に浩志会活動に取り入れていければと思います。なお、リアル・オンラインを問わない最重要プロトコルは、出欠確認を期限までに返すことですので、皆様ぜひ実践をお願いいたします。

また、メンバー間で飛び交う膨大な事務連絡メールも、ビジネスチャットツールなどを活用してみるとより効率的なコミュニケーションができるようになるかもしれません。

以上、身近なところから始められそうな活動方針を（自戒の念も込めつつ）書かせて頂きました。皆様はどのような活動方針を立てられたでしょうか？

今から約80年前、シュレーディンガーは著書『生命とは何か』の中で「生物が自分の身体を常に一定のかなり高い水準の秩序状態（かなり低いエントロピーの水準）に維持している仕掛けの本質は、実はその環境から秩序というものを絶えず吸い取ることにあります」と記しています。生物に限らず浩志会も、我々一人一人がエネルギーを消費して作り出す秩序（負のエントロピー）を絶えず取り入れて変化し続けることによって、維持されているのかもしれません。福岡伸一先生は、私たちの体は「変わらないために変わり続けている」と言っています。皆様におかれましても、どんな形態でも良いので浩志会のために是非エネルギーを使って頂き、変わらないために変わり続けている浩志会を明日に繋いでいけるよう、お力添えを頂ければ幸いです。

副代表にはAGCの宮川智子さん、鹿島建設の嵩直人さんに入って頂き、総勢40名の本会員幹事メンバーで力を合わせて活動していきたいと思います。これから1年間、どうぞよろしくお願ひします。